

2000年4月1日から2015年3月31日までに川崎医科大学附属病院泌尿器科で精巣上体摘除（高位精巣摘除術）を行われた患者さんへ「精巣上体における免疫関与遺伝子 IDO の発現に関する解析」に関するお知らせ。

当教室では、2000年4月1日から2015年3月31日までに、川崎医科大学附属病院泌尿器科で精巣上体摘除（高位精巣摘除術）を行われた患者さんについて、精巣上体における免疫関与遺伝子 IDO の発現に関する解析を行うこととし、倫理委員会より研究実施の承認を得ました。研究実施期間は倫理委員会承認日から2年間です。必須アミノ酸トリプトファンの代謝に必要な酵素であるインドールアミン-2,3-ジオキシゲナーゼ(IDO)は、精巣上体（頭部）に高率に発現していることが報告されています。精巣上体は、精子の成熟の過程に重要な役割を果たしており、動物実験で IDO との関連性が報告されています。当科では動物モデルを用いた精巣上体における IDO の役割について解析を行っています。（動物実験委員会承認番号：14-108）。

しかし、ヒト精巣上体における IDO の役割についての解析はなされておらず、今回、当科で精巣上体摘除（高位精巣摘除術）を行った患者さんの病理標本を用いて、精巣上体における IDO の発現に関して解析を行います。本研究の結果は、学会演題や学術論文として発表される予定です。本研究は、過去に精巣上体摘除（高位精巣摘除術）を行われた患者さんの病理検体を組織学的に解析し、カルテからのデータを収集する研究であり、患者さんの個人情報をも抹消した状態で解析します。従って、患者さんの個人情報が外部に漏れる心配は全くありません。しかし、本研究の対象となる患者さんは、ご自身に関するデータの解析ならびに発表を拒否することができます。また、研究を行うために必要な資金を製薬会社等から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態と言います。本研究においては、当教室の教室費のみを使用する研究であり、深刻な利益相反の状態になっていないことを明記いたします。本研究を実施する関係者には、アステラス製薬株式会社、キッセイ薬品工業株式会社、ファイザー株式会社、旭化成ファーマ株式会社、日本新薬株式会社、武田薬品工業株式会社から奨学寄付金の受け入れがありますが、利益相反委員会にこの内容を申告し、適正に管理されております。なお、上記企業は本研究課題に直接関係のない企業です。何かご不明なことがありましたらいつでも遠慮なく下記の問い合わせ先にご相談ください。

本研究についてのお問い合わせ先

担当者：川崎医科大学 泌尿器科学 臨床助教 西下憲文

E-mail：urology@med.kawasaki-m.ac.jp

TEL：086-462-1111 FAX：086-462-1199